

令和2年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針		昨年度の成果と課題		本年度学校経営の重点	
<p>◆学校経営方針</p> <p>生徒一人一人が個性や能力を伸ばさせ、自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすことが求められています。このため、教育目標や教育方針に基づき、各学科、専攻等がそれぞれの特色や持ち味を生かしながら切磋琢磨することで、学校の活性化を図ります。そのため、特に次の3点を学校経営の基本方針とします。</p> <p>(1) 質の高い学習指導と確かな進路実現の具現化 (2) 社会的自立を図るために必要な資質・能力の育成 (3) 地域・保護者に信頼される学校づくり</p>		<p>◆昨年度の成果と課題</p> <p>(成果) ・スマートスクール推進事業等を通じて指導方法の工夫や教材の研究を進めることができ、教員同士で高めあうことができた。 ・スマート講座等を利用して専門学科と普通科の交流の機会を設けることで、生徒が互いに切磋琢磨することができた。 ・各学科、コース、専攻の特徴に応じた丁寧な進路指導を全校体制で取り組むことで、生徒の希望進路の実現に貢献できた。 ・学校行事に関わる事前指導や事後指導を充実させることで、生徒が主体的に行動できるようになるなど大きな変容が見られた。 ・高校生としての自覚を高める取組を推進することで、部活動や学校行事でリーダーシップを発揮する生徒が多く出てきた。</p> <p>(課題) ・学校HPやパンフレット、広報資料等の充実を図ったが、探究文理科と普通科美術・工芸専攻の募集状況が目標には達しなかった。 ・総合的な探究の時間等で「Can-Doリスト」の活用を図ってきたが、十分には活かされておらず定着度が高める取組が必要である。 ・問題を抱える生徒への対応を関係諸機関と綿密に連携をとりながら進めてきたが、一部の生徒については深い関わりを築くことができなかった。</p>		<p>◆本年度学校経営の重点</p> <p>①高い人権意識に基づく教育活動の推進 ・校訓「互いに理解し助け合おう」が自然に実行できる生徒の育成 ・教育方針「礼儀正しく、人としての基本を身に付けた生徒の育成」 ・教育方針「規範意識があり、社会性を持った生徒の育成」</p> <p>②生涯を自らの力で豊かに生きることができる力の育成 ・卒業後の社会で必要となる力を意識した教育 ・知識や技能だけでなく、学び方（課題発見力、課題解決力等を育成する教育） ・アウトプットさせることを大切に授業 ・生徒の興味、関心、意欲を刺激する授業 ・教育方針「学力の質が高く、今後も伸びゆく可能性を持った生徒の育成」</p> <p>③高校生活3年間での伸びを重視 ・校訓「自ら進んで自分を鍛え」の実践 ・個々の生徒がどれだけ努力し、どれだけ成長できたかを重視</p> <p>④高い危機管理意識による組織的対応 ・いじめ、不登校、問題行動等、生徒の状況把握への感度向上と迅速な初期対応 ・迅速かつ適切な報告、関係者間での情報の共有と共通認識</p>	
評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	魅力ある学校づくり	1 各学科、クラス、専攻の特徴を活かした高大連携、地域連携等の取組を充実させる。			
		2 探究文理科の初年度の取組を充実させ、次年度に繋げるとともに全校に成果を広げる。			
		3 読書習慣の定着に向けた集中読書や「honstagram」などの取組を更に活性化させる。			
	信頼される学校づくり	4 WEB、SNSなどを効果的に活用し、生徒の学びや成長の様子をこまめに発信する。			
		5 中学校等への広報活動を工夫し、全ての学科・専攻で定員を満たす。			
		6 家庭や地域、関係機関との連携を図り、きめ細かな指導を組織的に行う。			
教育課程 学習指導	確かな学力の育成	7 基本的な生活習慣の確立と家庭学習習慣の定着を図り、学力の向上を目指す。			
		8 生徒の興味関心や意欲を刺激するとともに、アウトプットを重視した授業を実践する。			
		9 効果的なICTの活用方法の研究を進め、内外に発信する。			
	ジェネリックスキルの育成	10 「ジェネリックスキルの取組を充実させて、卒業時にCan-doリスト3級を達成する。			
		11 「ジェネリックスキルの取組」と総合的な探究の時間の3年間を見通した計画を完成させる。			
進路指導 キャリア教育	希望進路の実現	12 各学科、クラス、専攻の特徴に応じた組織的・計画的な進路指導を充実させる。			
		13 国公立大学については35名以上(うち推薦10名以上)の合格を目指す。			
	キャリア教育の充実	14 3年間を通じた進路指導・キャリア教育の取組を工夫し、生徒の自立・自律を促す。			
生徒指導 人権教育	学校行事、部活動等の充実	15 部活動への積極的参加の指導を通して、健全な心身の発達を目指す。			
		16 体育・スポーツ活動や芸術文化活動の活性化と学校行事及び特別活動の充実を図る。			
	生徒の自立・自律	17 生徒が主体的に学ぶ仕組みを作り、自らの力で学校生活を充実させる力を身に付けさせる。			
		18 研修旅行等の学校行事において、生徒自身が深い学びを得ることを見据えた指導を行う。			
	豊かな人間性の涵養	19 規範意識を涵養し、基本的な生活習慣の確立、帰属意識の高揚を図る。			
		20 自他の生命や人権の尊重を基盤とした正しい判断力と実践力の育成に努め、人間としての在り方・生き方を深く考えさせ、社会の一員としての自覚を促す指導の充実を図る。			
		21 人権学習を工夫改善し、人権問題を自らの課題として捉え、解決に向けて実践する姿勢を身に付けさせる。			
教職員の意識向上	22 教育相談会議、特別支援会議を充実させ、支援計画などを基に連携を密にし、包括的に援助を行う。				
	23 高い人権意識に基づく教育活動の実現に向け、教職員研修の充実を図る。				
新型コロナウイルス感染症への対応	安全、安心の確保	24 新型コロナウイルス感染症防止に向けた環境整備と校内推進体制を構築し、安全で安心な学校作りを進める。			
健康・環境 美化	生徒の意識向上	25 美化委員会、保健委員会を充実させ、生徒が自主的に保健と美化の意識を高めるように指導する。また、清掃の徹底と用具の整備に努める。			
		26 健康診断の経過観察、事後指導を充実させ、生徒の健康管理、生活習慣の改善に努める。			
教育環境 の整備	修学・進路支援を進める広報の充実	27 生徒・保護者に向け、安心して在学でき、卒業後の進路実現の一助となるよう、就・修学支援に係る援護制度について、的確な情報提供を行う。			
	安心・安全な施設・設備の維持増新	28 清潔な学習環境を保つ清掃・衛生管理を実施し、常に課題意識や危険予測をもった施設・設備の維持管理を行い、修繕箇所を早期に発見・対応する。			
研究指定等	府立高校特色化事業（スーパーサイエンスネットワーク京都校）、高校生伝統文化事業（京の文化継承・価値創造推進校）				
評価	A:十分達成できている(目標以上の成果が得られた) B:ほぼ達成できている(ほぼ目標どおりの成果が得られた) C:達成できているとはいえない(成果はあったが、目標に達していない) D:ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)				
学校関係者評価委員会による評価					
次年度に向けた改善の方向性					